



平成 21 年 10 月 30 日

各 位

会 社 名 株式会社エー・アンド・デイ
代表者名 代表取締役執行役員社長 古川 陽
(コード番号 7745 東証第一部)
問合せ先 執行役員管理本部長 伊藤 貞雄
(TEL. 048-593-1111)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 21 年 5 月 15 日に公表いたしました第 2 四半期累計期間業績予想を下記の通り修正いたします。

記

1. 業績予想の修正

平成 22 年 3 月期 第 2 四半期連結累計期間の業績予想の修正 (平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	四 半 期 純 利 益	1 株 当 たり 四 半 期 純 利 益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前 回 発 表 予 想 (A)	14,250	△600	△850	△520	△25 85
今 回 修 正 予 想 (B)	12,485	△1,570	△1,470	△2,260	△112 38
増 減 額 (B-A)	△1,764	△970	△620	△1,740	—
増 減 率 (%)	△12.4	—	—	—	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 21 年 3 月期第 2 四半期)	16,292	△402	△717	△591	△26 67

2. 修正の理由

金融危機に端を発した世界的景気後退は底打ち感が見られるものの、当社グループを取巻く経営環境は当初予想を大幅に下回る状態であります。

売上高につきましては、計測・計量機器事業は、民間企業の設備投資抑制や経費圧縮による買い控えが続いていることから、試験機、計測・制御・シミュレーションシステム、電子天秤、台秤等が予想を下回ることとなりました。また、医療・健康機器事業は、家庭用血圧計の主要マーケットであるロシアの景気回復が遅れていることから予想を下回ることとなりました。

利益につきましては、販売費及び一般管理費の圧縮に努めているものの売上高減少による影響を吸収するには至らず、営業損失・経常損失共に前回発表予想より増加し、更に四半期純損失についても繰延税金資産の取崩し等により増加する見込であります。

3. 通期

平成 22 年 3 月期通期の連結業績予想につきましては、平成 21 年 11 月 6 日に予定しております平成 22 年 3 月期第 2 四半期決算発表時にお知らせいたします。

(注) 上記の業績予想は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以 上